

独立行政法人労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所

NEWS健診だより

第5号

2020年11月1日
発行

NEWS健診だよりは、緊急作業に従事された方々の健康サポートのため、健康診断実施結果のご報告や放射線の健康影響に関する研究活動の進捗などについて年1回お届けしています。



Photo: しまなみ海道サイクリングロード

日本で初めて海峡を横断できる自転車道として整備された「しまなみ海道サイクリングロード」。広島県と愛媛県を結ぶしまなみ海道は、歴史と文化が溢れる瀬戸内海の島々が織りなす海の道。「世界7大サイクリングロード」に選ばれ、国内外から注目を集めているスポットです。

- 写真協力：公益財団法人 放射線影響研究所
- 出展：おのみちや

目次

P1 ご挨拶

P2・P3 健診の進捗状況

P4 令和2年度における健診の流れ

P5 NEWS健診項目について

P6 健診機関リスト(多項目健診)

P7 NEWSオンラインコミュニティ応援隊員募集

P7 産業医 T のほっとタイム

P8 「絆」が守る心の健康

P9 健康づくり支援のご要望に関するアンケート調査の結果について

P10 Q&A よくある質問

ご挨拶

緊急作業従事者の皆様には原子炉が不安定な時期にご尽力いただきまして深く感謝いたします。また日ごろより本疫学研究にご理解、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

本研究は、皆様方すべてを対象に、一生涯続く調査ですが、その間に5年単位で外部専門家の評価を受けることになっています。開始後5年間が経過したので、本研究でも、先に外部専門家からなる委員会の評価を受けました。その結果、細部の技術的な改善の示唆はありましたが、全体としては、第一期5年間の方針を大きく変えることなく、第二期以降の研究を進めるようにという結論でした。

そこで、本研究は今後も従来のやり方を踏襲するわけですが、まず、さらに多くの緊急作業従事者の皆様に参加していただくための呼びかけを続けます。また、すでに参加されている方々には従来の4～5年に1回の健康調査だけではなく、調査頻度を増やすとともに、新しい情報入手の方法を検討しています。

その目的は皆様が退職した後も継続的に健康調査結果を蓄積し、効果的に事後指導へ役立てることです。そのためには、従来のように、一定の間をおいて調査をくり返すやり方だけではなく、日常の健康状態を継続的にサポートするような、新しい方法を開発する予定です。

このような工夫に力を入れつつ、この研究が緊急作業に従事された皆様との距離を縮め、これまで以上に、いろいろなご要望をうけたまわりながら、それに基づいた活動になることを目指してまいります。

今年もどうぞよろしくお願いいたします。

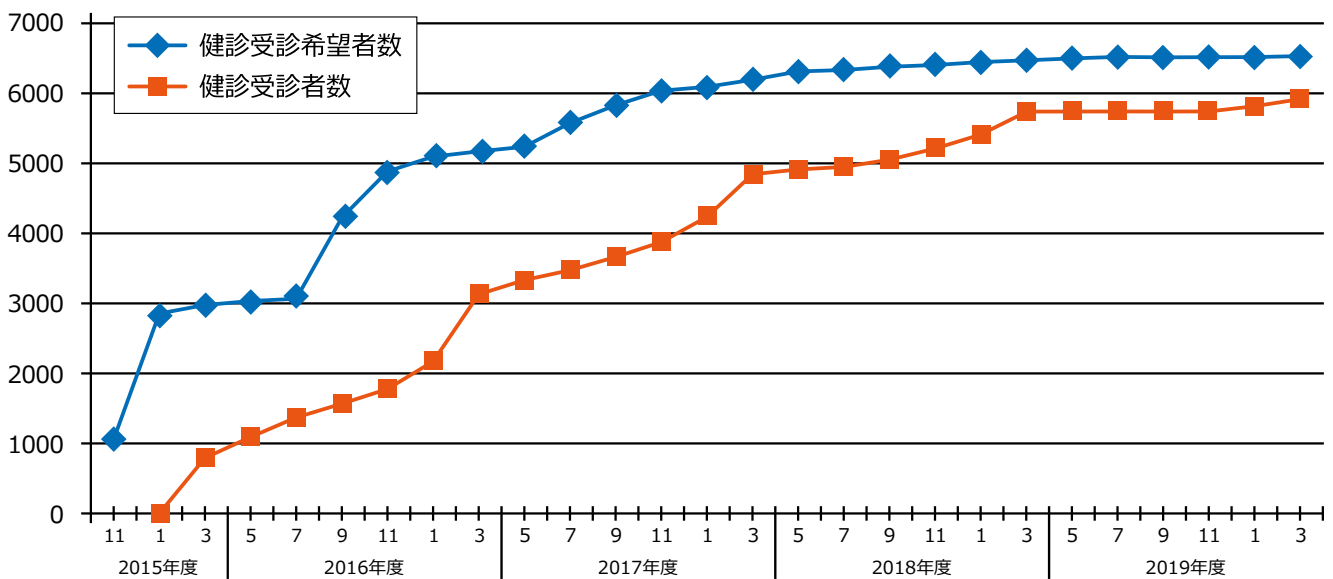
独立行政法人労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所
労働者放射線障害防止研究センター
センター長 大久保 利晃

健診の進捗状況

2015年度より緊急作業従事者の皆様へ調査研究への参加をお願いしてまいりました。
 2020年3月末時点で研究参加者7,944名※、健診希望者6,523名、健診受診者5,907名となりました。
 調査研究への参加、健診の申し込みはいつでも可能です。
 ご参加いただける方は、フリーダイヤル0120-865-618までお電話ください。

※研究参加者：研究協力の同意が得られている方

調査研究参加状況



今年度の健診ご案内の状況について

◆ ベースライン調査(疫学研究の第1回目の多項目健診)

昨年度までにお申し込みをいただいている方については、健診機関の受診希望者リストとしてあがっており、健診枠の調整ができ次第、ご希望の健診機関またはNEWS健診予約センターより連絡があります。これまで健診申し込みをされていない方は、今後のご参加についてご検討いただき、お電話、またはメールにてお申込みください。

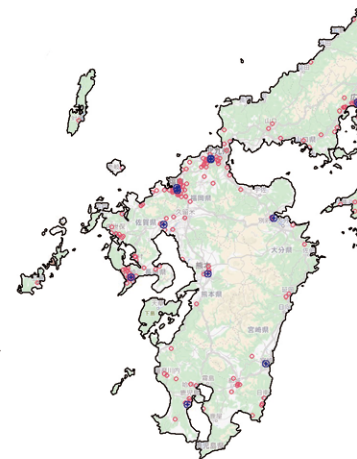
◆ 縦断調査1回目(疫学研究の第2回目の多項目健診)

今年度の対象となる方には、2020年10月にご案内をお送りいたしました。順次、健診の予約をさせていただいております。

◆ 基本健診(定期健診並みの検査項目)

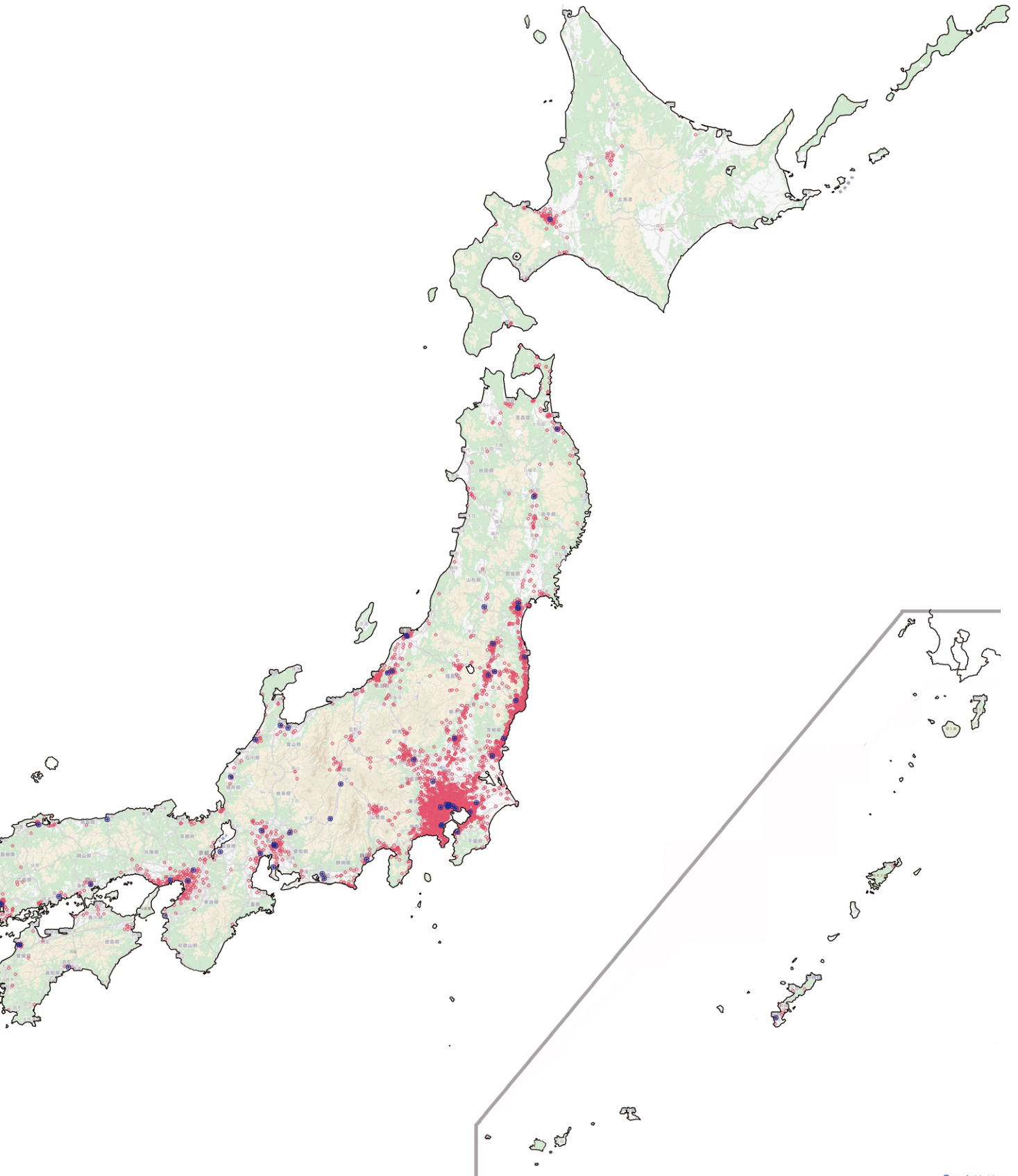
昨年度より始まったこの健診の対象となる方については、2020年8月から順次、ご案内をお送りしております。

なお、2021年3月末までに受診いただけない場合につきましては、年度を越してしまいますが、2021年4月以降に優先的に受診できるようにご案内させていただきます。ご理解のほどお願い申し上げます。



健診受診延べ人数5,907名の分布図

(2016年1月～2020年3月31日)



令和2年度における健診の流れ

NEWS 健診に初めてお申込みになる方

郵送でのお申込み

お電話またはメールでNEWS研究本部までご連絡ください。申込用紙をお送りしますので必要事項をご記入のうえ返送してください。

フリーダイヤル：0120-865-618

E-mail：info.newstudy@h.jniosh.johas.go.jp

ウェブサイトからのお申込み

NEWSウェブサイト内、調査研究参加と健診までの流れをご覧ください。

URL:http://www.news.johas.go.jp/hp/cooperate_flow.html



NEWS 健診にすでにお申込みいただいている方

みなさまの健診サイクルにあわせて段階的にご案内をいたします。

多項目健診

ベースライン調査・縦断調査
4～5年に1回実施

基本健診

多項目健診を受診されない年に原則毎年実施

予約調整

対象となる方に順次、健診機関、またはNEWS健診予約センターより予約調整のお電話をいたします。



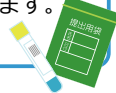
予約申込

対象となる方に順次、健診のご案内を郵送にてお届けします。同封の同意書、問診票などとともに、ご希望の受診日を、漏れなくご記入いただき郵送でお申込みください。



健診のご案内

- 健診日の10日前頃までにNEWS研究本部から同意書見本、同意書説明文と質問票をお送りします。健診当日までにご一読いただき質問票にご記入ください。
- 健診機関からは、検査用キットなどが送られます。同封の説明書に従いご準備をお願いします。



予約調整

予約が確定しましたら受診券を郵送いたします。ご希望日で予約がとれなかった場合、お電話で再度予約調整をいたします。受診券の発行をもって予約完了となります。

健診当日

ご記入いただいた質問票、医療機関より指定された提出物をご持参ください。当日は同意書にご記入いただいたのち、各検査を行います。

(所要時間は半日程度)

健診当日

受診券、医療機関より指定された提出物(事前送付された場合)をご持参ください。

(所要時間は2～3時間程度)

結果報告

検査結果は、1か月以内をめどにお手元にお届けいたします。
※健診の結果、精密検査が必要な場合は、ご自身の負担(保険診療)となります。



NEWS健診項目について

多項目健診

血液検査

- 白血球 ●赤血球
- 血小板 ●肝機能
- 腎機能 ●尿酸
- 電解質(Na、K、Cl、Ca、P)
- 血糖 ●HbA1c
- 中性脂肪 ●総コレステロール
- LDL(悪玉)コレステロール
- HDL(善玉)コレステロール

A B型・C型肝炎ウイルス検査
(初回のみ)

B 甲状腺ホルモン検査
甲状腺抗体検査

C ピロリ検査(初回のみ)
胃X線検査 または
胃内視鏡検査(2回目以降)※

D 前立腺特異抗原(PSA)検査

尿検査

- 潜血 ●蛋白
- 糖 ●亜硝酸塩

E 喀痰検査

- 喀痰細胞診

F 便潜血検査

G 心電図検査

H 胸部X線検査

I 腹部超音波検査

J 甲状腺超音波検査※

その他

- 問診 ●診察 ●身体計測
- 視力・聴力等生理学検査
- 推定1日食塩摂取量

安衛則第44条と電離則第56条に基づく検査項目

※甲状腺超音波検査、胃X線検査、胃内視鏡検査は、
受診機関によって実施していないところがあります。

基本健診

血液検査

- 白血球 ●赤血球
- 肝機能
- 血糖 ●中性脂肪
- LDL(悪玉)コレステロール
- HDL(善玉)コレステロール

尿検査

- 蛋白 ●糖

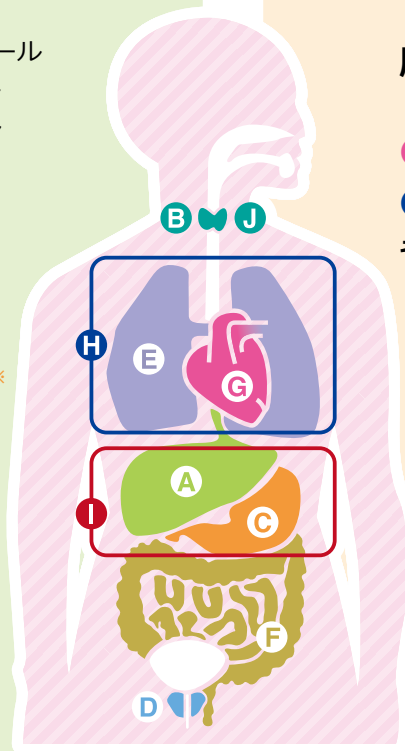
G 心電図検査

H 胸部X線検査

その他

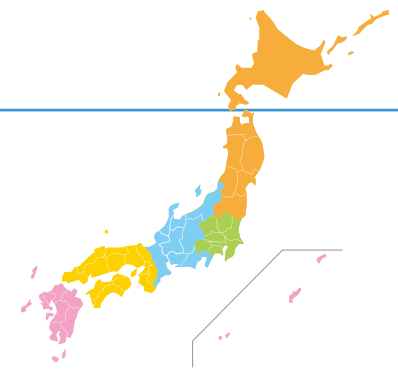
- 問診 ●診察 ●身体計測
- 視力・聴力等生理学検査

安衛則第44条と電離則第56条に基づく検査
項目



健診機関リスト (多項目健診)

(2020年10月)



基本健診は 300 か所以上の機関と契約しています。

都道府県	健診機関名
北海道	北海道労働保健管理協会
青森県	八戸市総合健診センター
岩手県	岩手県予防医学協会
宮城県	杜の都産業保健会 一番町健診クリニック
	宮城県成人病予防協会 附属仙台循環器病センター 総合健診センター
	宮城県成人病予防協会 中央診療所
山形県	日本健康管理協会 山形健康管理センター
福島県	福島県労働保健センター
	星総合病院
	福島県労働保健センター いわき健診プラザ
	三春町立三春病院 南相馬市立総合病院
茨城県	茨城県総合健診協会
	日立製作所 日立健康管理センタ
栃木県	栃木県保健衛生事業団
群馬県	日本健康管理協会 伊勢崎健診プラザ
埼玉県	埼玉県健康づくり事業団
千葉県	ちば県民保健予防財団
	君津健康センター 聖隷佐倉市民病院健診センター
東京都	健康医学協会 東都クリニック
	東京都予防医学協会
	日本予防医学協会附属診療所ウエルビーイング毛利
	同友会 春日クリニック
	こころとからだの元気プラザ
	綜友会 高戸橋クリニック
	綜友会 第二臨海クリニック
日本健診財団 高井戸東健診クリニック	
神奈川県	神奈川県予防医学協会
	神奈川県結核予防会 中央健康相談所
新潟県	新潟県労働衛生医学協会 プラウカ健康増進センター
	新潟県労働衛生医学協会 アクアレー長岡健康増進センター
	健康医学予防協会 新潟健診プラザ
	健康医学予防協会 長岡健康管理センター
富山県	北陸予防医学協会 高岡総合健診センター
	北陸予防医学協会 健康管理センター
石川県	石川県予防医学協会

都道府県	健診機関名
福井県	福井県労働衛生センター
長野県	中部公衆医学研究所
	日本健診財団 長野県支部 ほたるの里健診センター
岐阜県	ききよの丘健診プラザ
	ぎふ総合健診センター
静岡県	聖隷福祉事業団 聖隷健康診断センター
	聖隷福祉事業団 聖隷健康サポートセンター Shizuoka
	聖隷福祉事業団 聖隷予防検診センター
愛知県	愛知健康増進財団
	オリエンタル労働衛生協会
	半田市医師会健康管理センター 日本予防医学協会 東海事業部
三重県	三重県産業衛生協会
滋賀県	滋賀保健研究センター
大阪府	愛仁会 愛仁会総合健康センター
	日本予防医学協会 西日本事業部
兵庫県	兵庫県予防医学協会
和歌山県	NS メディカル・ヘルスケアサービス
鳥取県	中国労働衛生協会 鳥取検診所
島根県	島根県環境保健公社
岡山県	淳風会 淳風会健康管理センター
	広島県集団検診協会
広島県	中国労働衛生協会 福山本部
	放射線影響研究所 広島研究所
愛媛県	愛媛県総合保健協会
高知県	菅井内科 高知県総合保健協会
福岡県	西日本産業衛生会 北九州産業衛生診療所
	福岡労働衛生研究所
	九州健康総合センター 医療情報健康財団
佐賀県	佐賀県産業医学協会
長崎県	放射線影響研究所 長崎研究所
熊本県	熊本県総合保健センター
大分県	大分総合健診センター
宮崎県	宮崎県健康づくり協会
鹿児島県	鹿児島県労働基準協会 ヘルスサポートセンター鹿児島
沖縄県	那覇市医師会 生活習慣病検診センター

※健診機関によっては受付可能枠が少なく、受診までお待ちいただく場合があります。

※原則、お住まいの都道府県の健診機関での受診をお願いしています。

NEWSオンラインコミュニティ応援隊員募集

NEWSの調査研究では、郵送によるご案内に加えて、オンライン上にコミュニティを形成し、より身近な情報発信体制を構築することを目指しています。本活動にご賛同をいただき、オンラインコミュニティにご協力いただける方を、NEWSオンラインコミュニティ応援隊員として募集いたします。



NEWSオンラインコミュニティのサービス

- ◆ご登録いただいたメールアドレスで、定期的にNEWS健診の最新情報や健康に関する情報を受信できるようになります。
- ◆また、将来的に、現在開発中のスマートフォン用アプリにより、疫学研究で受けた過去の健診結果を閲覧できるようになり、それに基づく健康指導が受けられるようになります。

NEWSオンラインコミュニティ応援隊員の活動

- 応援隊員として、ご登録いただいた方には、次のような活動をご案内いたしますので、自由にご参加ください。各種活動の参加費などはかかりません。必要に応じて参加に係る交通費をお支払いいたします。
- ◆NEWSが実施するアンケートへのご協力^{※1}
 - ◆NEWS健診の広報活動へのご参加^{※2}
 - ◆その他ご同意いただける各種活動へのご参加
- なお、今回、応援隊員参加謝品として、同封のリーフレットにある、メタボ & 生活習慣セルフチェックキット^{※3}を贈呈させていただきます。

応援隊員希望・お名前・生年月日・送付先ご住所をご記入ください

お申し込み方法と締め切り

同封の申し込みはがき、またはメールでお申し込みください。
第1期応募締め切りは、2020年12月31日(木)までです。

※1 年に数回程度、アンケートなどを実施する予定です。

※2 NEWS健診のプロモーション映像やNEWS健診だよりの企画に参加していただけます。

※3 NEWS調査研究において利用することをご了解いただいた方のセルフチェックキットによる結果データについては、健康調査の参考値として活用させていただきます。2021年3月までの送付を準備しておりますが、参加者多数の場合は、一部の方には、2021年6月頃に送付させていただくことがあります。



産業医Tのほつとタイム

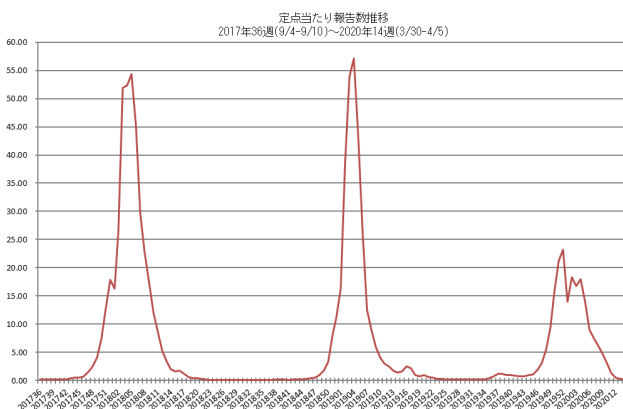


令和2年の上半期は過去に類を見ない徹底した風邪(上気道感染症)の予防対策(新型コロナウイルス対策も含む)が行われていました。

具体的には、咳エチケット、手指消毒、換気、人混みを避けるなどです。今回は、予防対策の意味について解説します。

厚生労働省は、インフルエンザに関する報道発表資料を毎年発表しています。その中の、インフルエンザ流行レベルマップ(2020年第14週)によると、2019年36週から2020年第14週の累積の推計受診者数が約728.5万人と、前シーズン(2018年36週から2019年第20週)の約1,209.9万人から6割程度まで低下しました。

●出典(国立感染症研究所感染症疫学センター インフルエンザ流行レベルマップ)



ここで、ポイントとなる点は、予防対策には大きな効果があるものの完全に予防することはできなかったという点です。

風邪はありふれた病気であるものの、万病の元でもあります。自分が無理なく継続してできる予防対策をしつつ、持病等をお持ちの方は、自分の行っている予防対策が適切であるかを主治医に確認をするようにしてください。

<https://www.mhlw.go.jp/content/000620714.pdf>
インフルエンザ流行レベルマップ(2020年第14週)

「絆」が守る心の健康

産業医科大学 産業生態科学研究所 産業精神保健学研究室
助教 真船 浩介

この調査研究では、緊急作業後の心の健康についても、アンケートや面接でご回答頂いており、人と人とのつながりが心の健康を保つために重要であることが明らかになっています。東電福島第一原発の緊急作業では、過酷な作業や身に迫る危険、社会的な重圧、放射線の見えない脅威等、多様な負担が想定され、様々な指標から心の健康との関連を調べています。この調査研究と同じアンケートを用いた国民生活基礎調査(厚生労働省、2016)では、20歳以上の成人の10.5%が強い心理的ストレスを感じていることが示されていますが、今までに調査にご協力頂いた皆様の結果では9.6%、ほぼ同等の結果であり、過酷な状況を乗り越える様々な工夫があると推察されています。特に、緊急作業当時の職場の支援が重要である可能性が示されています(図1)。職場の支援は、上司や同僚と気兼ねなく話せることにもとづいています。一方で、放射線や感染症は目に見えない脅威として、様々な誤解や偏見を生むことが知られています。こうした偏見や差別は「スティグマ」と呼ばれ、心の健康と関連の強い社会的な問題です。スティグマは、直接、偏見や差別を受けた経験だけでなく、そうした周囲の偏見の目を避けるために身分を隠したりすることも含まれます。このようなスティグマに対しても、似たような境遇に置かれた職場等、近い方からの支援が、心の健康を守る上で役に立つことが知られています。皆様にご協力頂いている調査研究は、こうした支え合う大切さや謂れのない偏見の脅威を科学的に検証し、社会に発信し、これからの災害に対する備えとして役立てられています。皆様のご協力に深く感謝申し上げます。

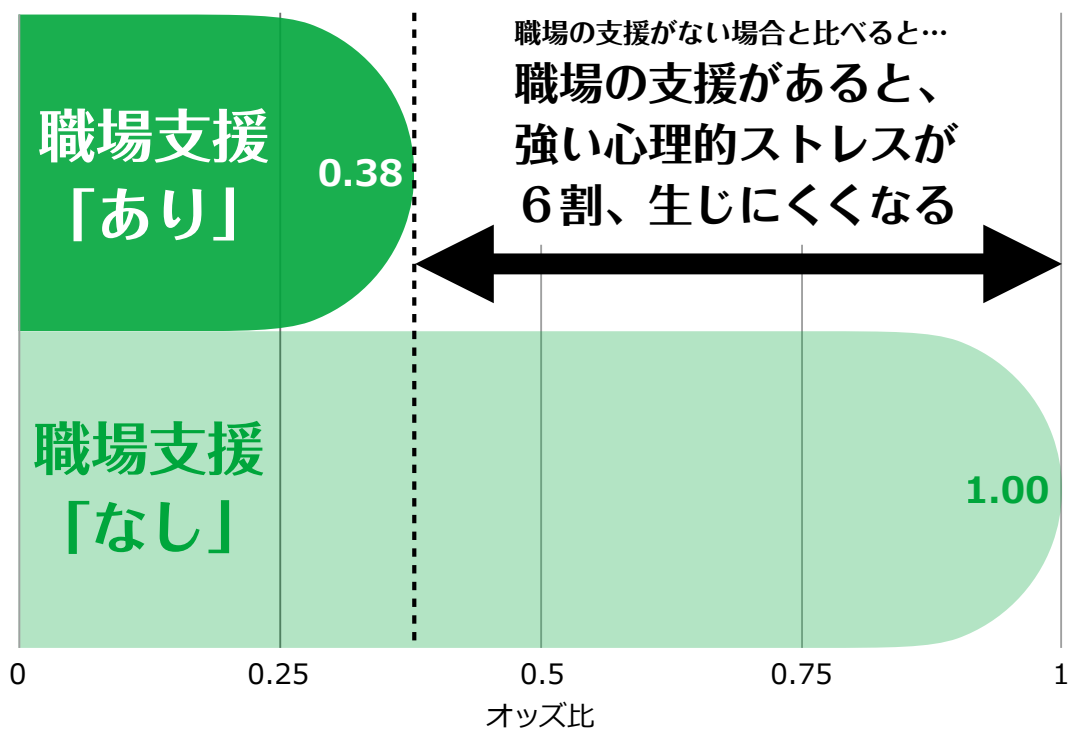


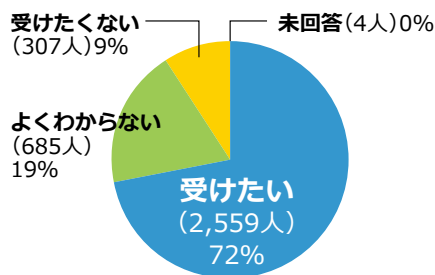
図1：職場の支援と強い心理的ストレス

健康づくり支援のご要望に関するアンケート調査の結果について

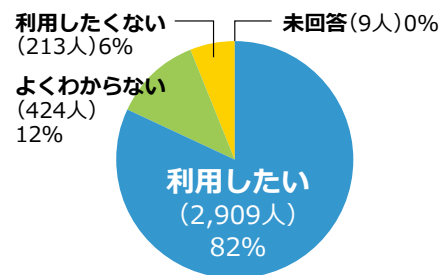
広島大学 原爆放射線医科学研究所 計量生物研究分野
教授 吉永 信治

本研究にご参加いただいている皆様を対象に今後、保健指導など健康づくり支援に関するサービスを提供するにあたりまして、関連する要望等のアンケート調査を2020年3月に実施いたしました。3,578人(60.7%)から回答をいただき、無記入の回答23通を除いた3,555通を集計いたしましたので、調査結果の一部をご紹介します。健康づくり支援サービスとして、①研究専用のサーバで保管される健診データを活用した運動や食生活改善などの保健指導、②健診データを自分がPCやスマホで見られるアプリ、③人工知能の学習・解析により将来の健康状態などを予測するサービス、④自分の健診データを参照しながらの専門家による健康相談についての質問に対し、「受けたい」または「利用したい」と回答した方の割合は、それぞれ72%、82%、83%、80%で、これらのサービスに対する要望が高いことがうかがわれました。

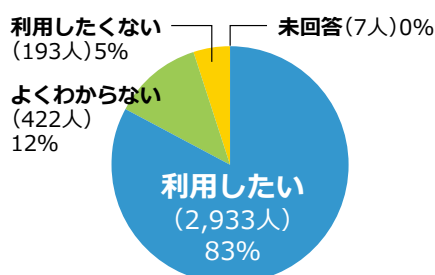
① 研究専用のサーバで保管される健診データを活用した運動や食生活改善などの保健指導を積極的に受けたいと思うか？



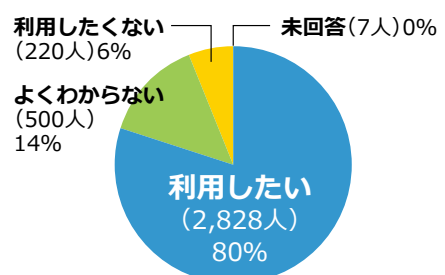
② 健診データを自分がPCやスマホで見られるアプリがあれば利用したいと思うか？



③ 人工知能の学習・解析により将来の健康状態などを予測するサービスを利用したいと思うか？



④ 自分の健診データを参照しながら、専門家による健康相談を利用したいと思うか？



一方、これらのサービスを受けたくないまたは利用したくないと回答した方はそれぞれ、9%、6%、5%、6%で、その主な理由としては、保健指導を受ける時間がない、データが外部にもれるのが心配、予測の信頼性がわからない、相談するのが面倒などでした。

また、本研究に対して皆様から寄せられたご意見のいくつかを紹介します。

- 情報管理は厳重にしてほしい。
- 健診の結果をいただければ充分。
- アプリや健康相談を利用する費用は無料にしてほしい。
- ビッグデータを活用して正確な判断を導けるようなAI開発を期待する。
- 研究だけでなく健康づくり支援をしていただければ今後も積極的に参加していきたい。

さらに、健康づくり支援サービスが運用開始になる予定を知りたいとの質問も複数寄せられました。研究班ではアンケートで得られた皆様からのご意見を参考とし、数年以内にこのサービスを開始できるよう準備を進めてまいります。



Q&A よくある質問

Q: この研究に協力して健診を受けるメリットは何ですか？

A: 研究にご協力いただくことで、定期的な健診を継続して受けていただくことができます。その健診結果は、あなたの生涯にわたってNEWS研究本部に保管（研究参加の中止を希望された場合は責任をもって削除します。）されるので、長期間にわたる健康度のわずかな変化が分かり、あなたの健康管理に役立てることができます。

Q: 個人情報はどうのように管理されていますか？

A: 皆様からの同意書や質問票等の紙資料や健診結果などの電子データは、専用IDカードによる施錠可能なNEWS研究本部の部屋の施錠可能な保管庫で厳重に保管しています。部屋への入退室は記録され、保管庫は権限を付与された者のみが管理します。電子データはあなたとまったく関わりのない番号をつけ（匿名化といいます。）記録、保存します。データを分析する研究者に提供する場合は、匿名化された情報とし、どなたのものか分からないようにいたします。破棄する場合、すべての資料は復元不可能な方法で破棄いたします。

Q: 参加したいけど、健診等の費用は、全て無料ですか？

A: 健診は無料です。交通費に関しては、規定に基づき算出した最寄りの健診機関までの往復交通費および謝金をお支払いします。ただし、定められた健診項目以外の検査費用、健診の結果、要精密検査となった場合は、自己負担（精密検査は健康保険の適用が見込まれます。）となります。

Q: この健診を受診しても、会社の健診を受けなければなりませんか？

A: 会社の健診を希望しない場合には、NEWS健診結果を会社に提出していただくことにより、会社の健診は受けないことも可能です。会社の健康管理室などにご相談ください。

Q: 緊急作業従事者向けの健康相談や労災に関して相談できる窓口はありますか？

A: 厚生労働省では、緊急作業従事者向けに、健康相談窓口と、放射線被ばくに係る労災補償や労災保険給付などの相談窓口を設けています。下記にお問い合わせください。

労災保険相談ダイヤル

【TEL】0570-006031（ご利用には通話料がかかります。） 相談時間 9:00-17:00（平日）

緊急作業従事者向けの健康相談：全国労働衛生団体連合会（全衛連）

【TEL】0120-808-609（フリーダイヤル） 相談時間 9:00-17:00（平日）

このほか、厚生労働省では1年に1回、現況調査票で緊急作業従事者の皆様の住所確認を行っております。この事業は、令和2年度は全国労働衛生団体連合会が窓口となっております。NEWS健診と窓口が違うため、現況調査票でお知らせいただいた住所にNEWS健診のご案内が届かないといったお問い合わせがあります。ご不便をおかけいたしますが、住所変更等のご連絡は下記あてにもお願いいたします。

ご不明な点がございましたら、お気軽に下記NEWS研究本部へお問い合わせください。

東電福島第一原発緊急作業従事者コホート

「放射線業務従事者の健康影響に関する疫学研究（NEWS）」お問い合わせ先（土曜、日曜、祝日を除く午前9時から午後5時）



〒214-8585 神奈川県川崎市多摩区長尾6-21-1

独立行政法人労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所（安衛研）

労働者放射線障害防止研究センター NEWS研究本部

フリーダイヤル ☎ 0120-865-618

代表電話番号 TEL 044-865-6111

e-mail

newstudy@h.jniosh.johas.go.jp

ウェブサイト

http://www.news.johas.go.jp/